

# NEWS 港湾ニュース

## ■ 北方海域技術研究会 「平成 30 年度 技術研究発表会」開催報告

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム

2018 年 12 月 21 日に当研究所講堂において、「北方海域技術研究会 平成 30 年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、寒地土木研究所）を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と当研究所は 2011 年 11 月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

当研究所寒冷沿岸域チームの大塚主任研究員は「北海道沿岸域を対象とした高波・高潮リスク評価システムについて」と題して、高波・高潮の計算手法や使用するモデルの特徴、過去に発生した高波と高潮のシミュレーションの事例について講演しました。また、水産土木チームの稲葉研究員は「アマモ場・藻場に生息する海洋細菌を利用した赤潮及び貝毒の生物学的防除の可能性」と題し、海外の調査事例を交え、アマモ場・藻場に生息する殺藻及び増殖阻害細菌を赤潮等の防除に利活用する可能性について講演を行いました。

北見工業大学 地域未来デザイン工学科 社会インフラ工学コースの吉川泰弘准教授から「寒冷地河川の冬期災害～アイスジャム～」と題して、結氷河川における

アイスジャム現象の評価方法とジュエリーアイス出現メカニズム解明の取組について講演されました。

また、一般社団法人 全日本漁港建設協会の長野章会長は「(一社)全漁建が進める作業船位置回航情報システムと今後の展開」と題して、この作業船位置回航情報システムの導入のメリットを紹介し、さらに AI を用いた将来的な活用方法について講演されました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等から約 70 名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表します。



吉川泰弘氏の講演



会場の様子



長野章氏の講演